



県内経済情勢 (令和 8 年 1 月判断)

令和 8 年 1 月 29 日

財務省関東財務局
千葉財務事務所

照会先

千葉財務事務所 財務課 (TEL 043-251-7213)
ホームページ <https://lfb.mof.go.jp/kantou/chiba/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、持ち直している」

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	➡

（注）8年1月判断は、前回7年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（7年10月判断）	今回（8年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	➡
生産活動	足踏みの状況にある	持ち直しつつある	➡
雇用情勢	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡
設備投資	7年度は減少見込みとなっている	7年度は減少見込みとなっている	➡
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	➡
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている	➡
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	➡
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	➡

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、今後の物価動向、米国の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

物価上昇の影響がみられるなか、百貨店販売額やホームセンター販売額は前年を下回っているものの、スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額などは前年を上回っている。乗用車の新車登録届出台数は前年を下回っている。娯楽などは緩やかに回復しつつある。このように個人消費は、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 特別感がある物産展の商品や中食の「プチ贅沢」需要を捉えたお弁当といった食料品等は好調であるが、化粧品やバッグなどのブランド品のほか、衣料品も全体としては伸び悩んでおり、物価高騰による消費マインドの低下を感じる。(百貨店・スーパー)
- 買上げ点数は減少しているものの、お得なセールやキャンペーンを断続的に実施していることでリピーターが増えているほか、鍋商材やクリスマスケーキなど季節商品の販売促進にも注力したこと等から、売上げは前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 寒さの本格化に加え、価格競争力が高い他業態へ顧客が流れる傾向も感じられること等から客数がやや減少してきているが、値上げ効果により売上げは前年並以上を維持している。(コンビニエンスストア)
- 前年インフルエンザの大規模な流行があった反動で風邪薬等の売上げが減少しているほか、インバウンド需要の鈍化もみられるが、化粧品などのPB商品に加え、リップクリームやカイロといったシーズン品等の売れ行きは順調である。(ドラッグストア)
- 新型車投入効果が落ちてきしたこと等から新車の販売台数は前年を下回って推移している。物価高が続く中、自動車ローンの金利も上昇局面にあることから、顧客が慎重になっていることも一因を感じる。(自動車販売)
- 若年層を意識しネット媒体への露出を増やした広報活動が奏功しているほか、テレビ番組ロケ地への「推し活」としての来場が増えたこと等もあり、来場者数が増加している。加えてグッズ類の販売も好調であり、売上げは前年を上回っている。(娯楽)
- 近隣施設でのイベント開催が多かったことに加え、年末年始は大型連休にもなったこと等から宿泊客数は前年を上回って推移している。忘年会・新年会の宴会需要もリピーターを中心に前年並以上となっている。(宿泊)

■ 生産活動 「持ち直しつつある」

生産を業種別にみると、生産用機械などが減少しているものの、食料品、石油・石炭、鉄鋼などが増加しており、全体としては、持ち直しつつある。

- 顧客企業において、建設関連の需要が低調となっているほか、米国の通商政策も影響し市況見通しが不透明な状況にあること等から、当社製品に関わる設備投資意欲が全体的に減少しており、生産状況は芳しくない。(生産用機械)
- 国内需要は少子高齢化等により頭打ち感があるものの、海外需要は日本食ブーム等の影響もあって伸びており、生産ラインも能力いっぱいでの稼働を行っている。(食料品)
- 原油価格の下落や、設備のメンテナンス費用などのコスト増加が収益に影響を与えており、当社製品の需要は安定的に推移しており、稼働率としてもほぼフル稼働となっている。(石油・石炭)
- 今後当社製品の値上げを予定していることや、世界経済の不確実性の高まりが輸出入に及ぼす影響への懸念等を背景に、在庫確保に向けて動いている顧客企業から多くの発注があり、生産量は前年以上となっている。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直しつつある」

有効求人倍率は横ばいとなっているものの、新規求人数は増加している。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。このように雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。

- 特に技術職の採用について、少子化の進行に伴い潮目が大きく変わりつつある。採用人数確保のため採用活動の地域を拡大しているほか、現場点検におけるドローン活用など効率化・省力化等にも取り組んでいる。(製造)
- 離職が採用を若干上回っている中、早期離職のリスクを避けるため新卒採用者の配置希望は慎重に検討せざるを得ず、一部の部署以外は慢性的に人手不足感がある。この状況を解消するためにも中途採用を強化している。(娯楽)
- 人手不足は深刻。ドライバー等の採用に苦慮しており、稼働できない車両も発生している。(陸運)

■ 設備投資 「7年度は減少見込みとなっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10~12月期

- 製造業では前年比増減率1.3%の減少見込み、非製造業では同38.7%の減少見込みとなっており、全規模・全産業では同35.2%の減少見込みとなっている。

■ 企業収益 「7年度は減益見込みとなっている」 (全規模) 「法人企業景気予測調査」7年10~12月期

- 製造業では前年比増減率1.6%の増益見込み、非製造業では同3.8%の減益見込みとなっており、全規模では同3.0%の減益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超となっている」 (全規模・全産業) 「法人企業景気予測調査」7年10~12月期

- 先行きについては、8年4~6月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数をみると、持家は前年を上回っているものの、分譲住宅、賃家は前年を下回っており、全体として前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

- 公共工事請負金額をみると、前年を上回っている。

県内経済情勢 (令和8年1月判断)

(資料)

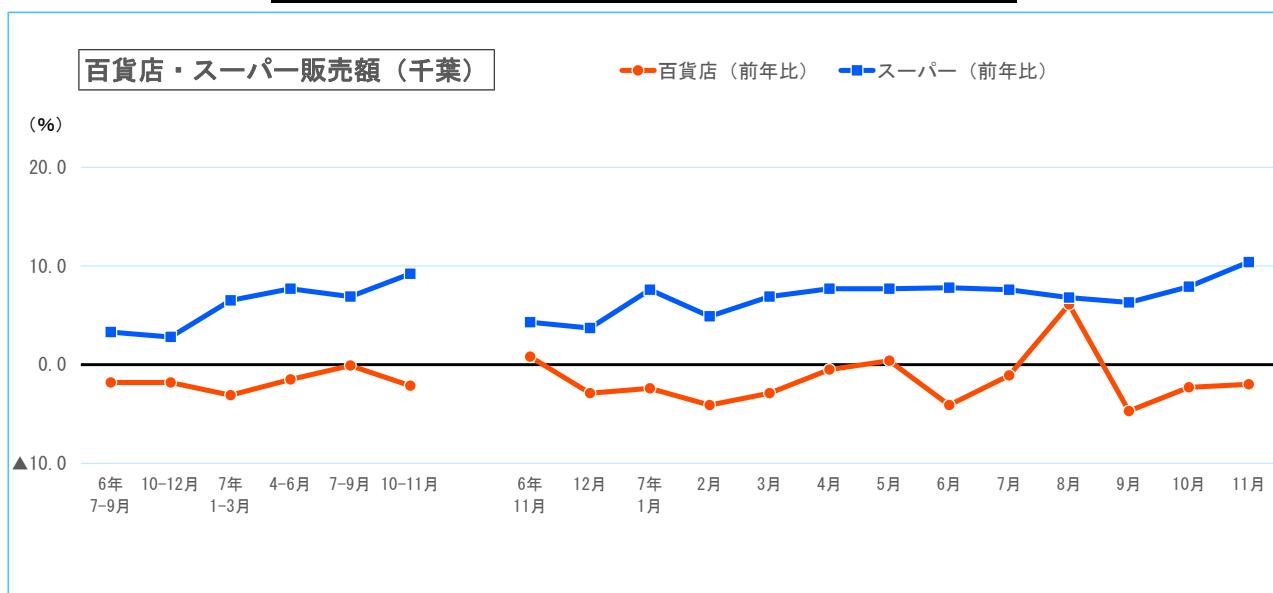
目次	(頁)
1. 個人消費	1
2. 生産活動	2
3. 雇用情勢	3
4. 設備投資	4
5. 企業収益	4
6. 企業の景況感	4
7. 住宅建設	5
8. 公共事業	5

令和8年1月29日

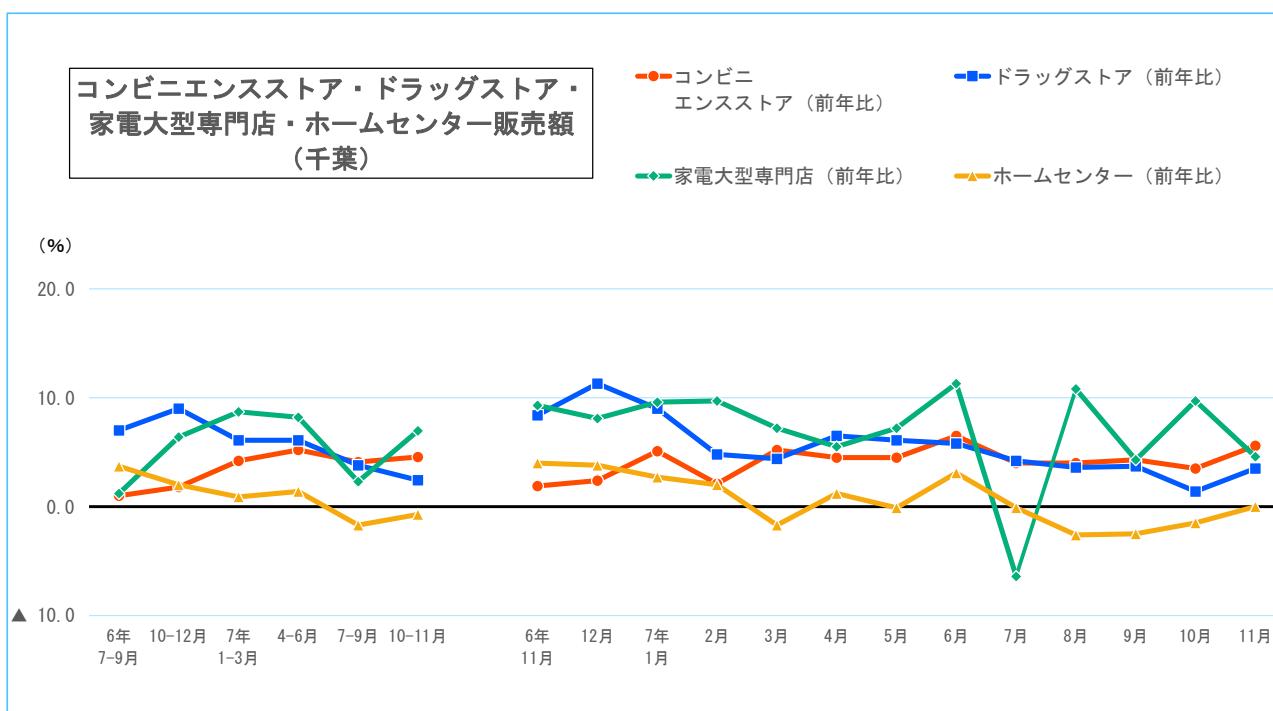
財務省関東財務局
千葉財務事務所

1. 個人消費

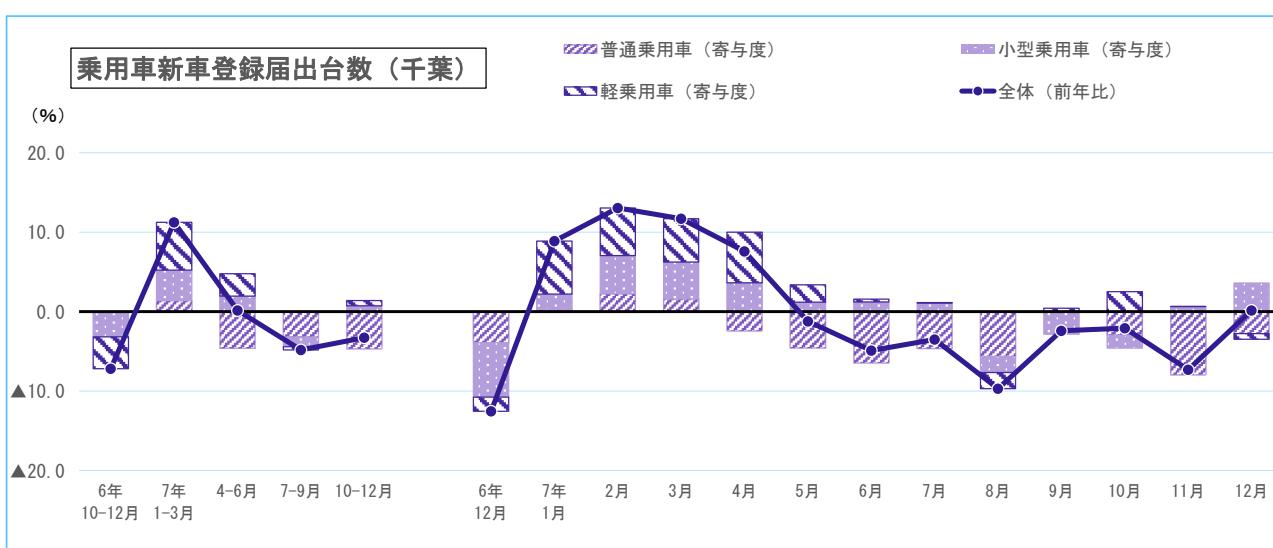
緩やかに回復しつつある



【経済産業省】



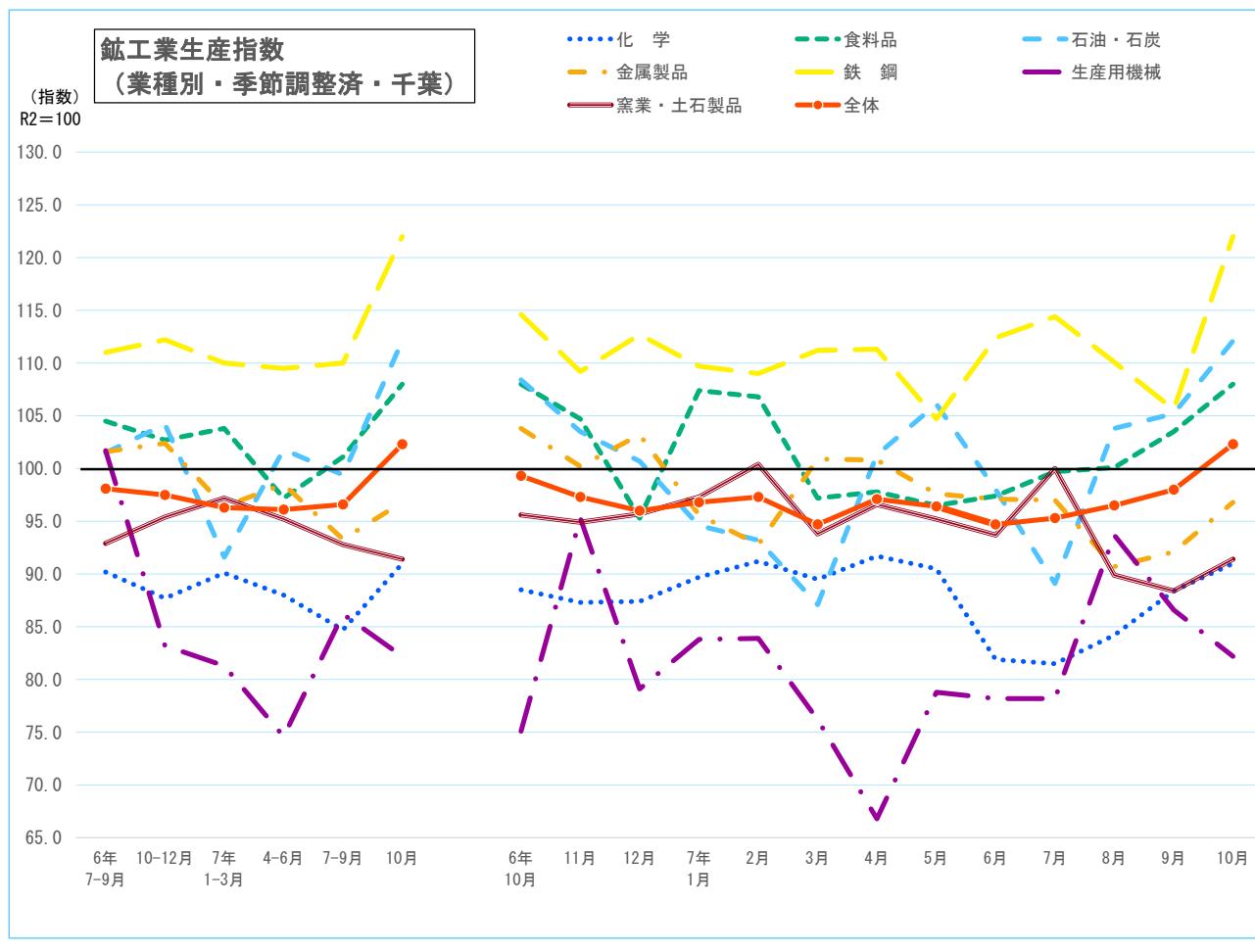
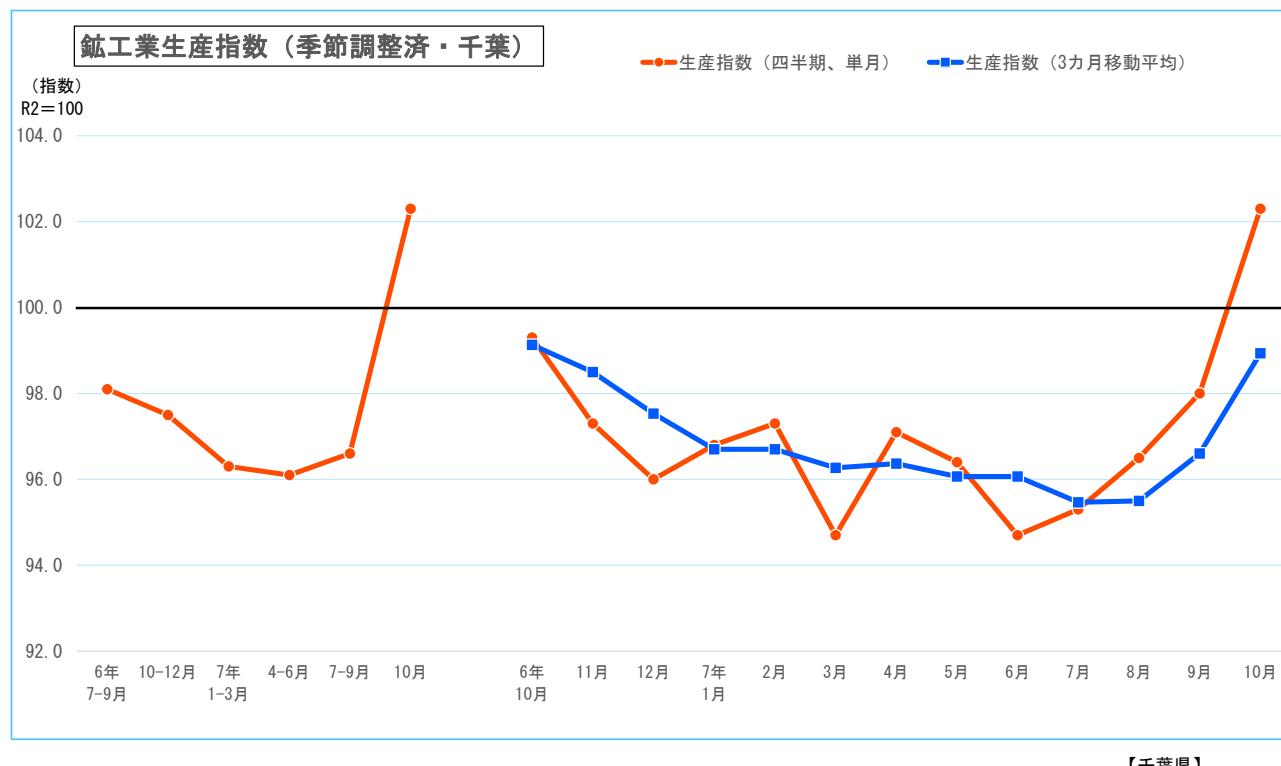
【経済産業省】



【日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会】

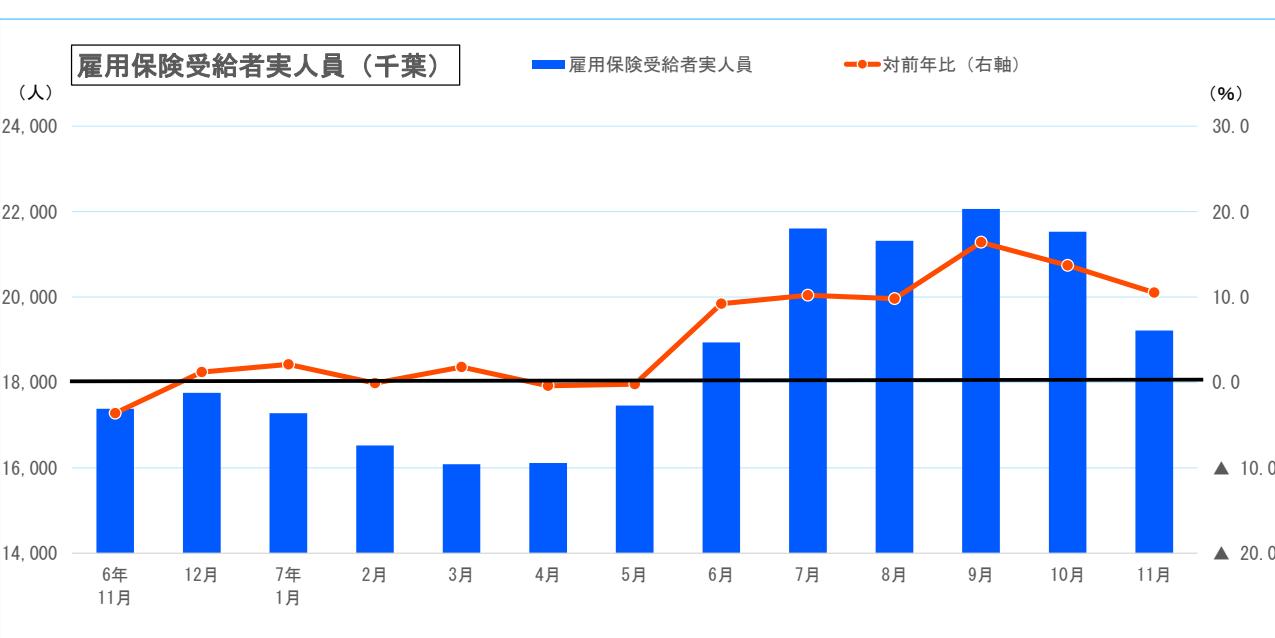
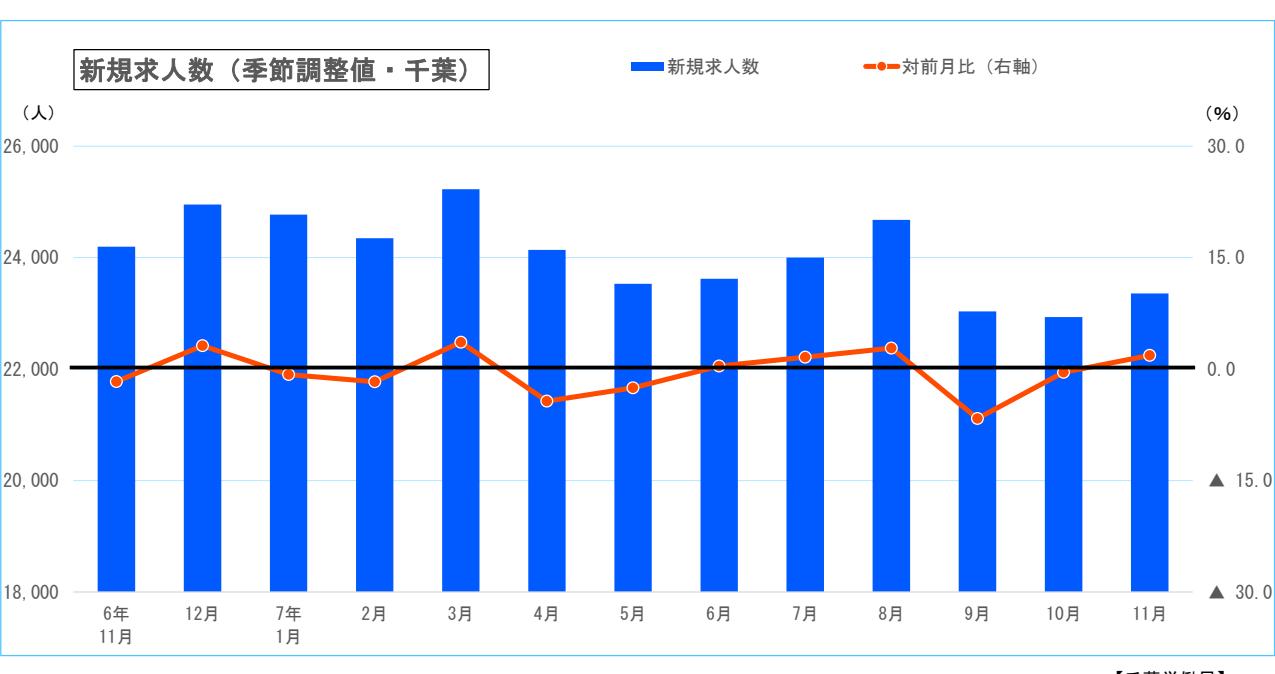
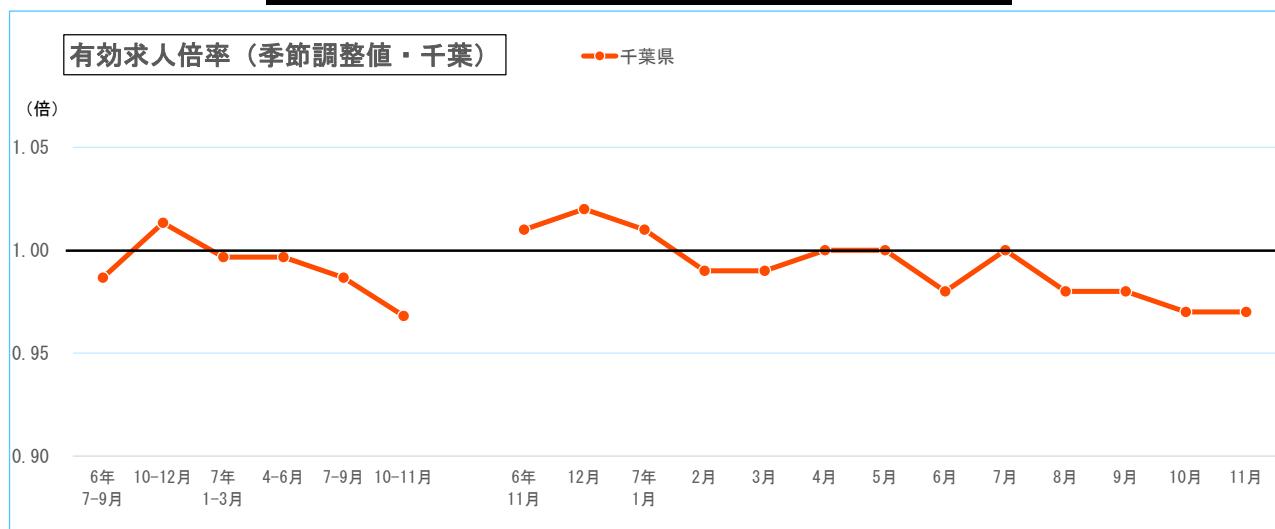
2. 生産活動

持ち直しつつある



3. 雇用情勢

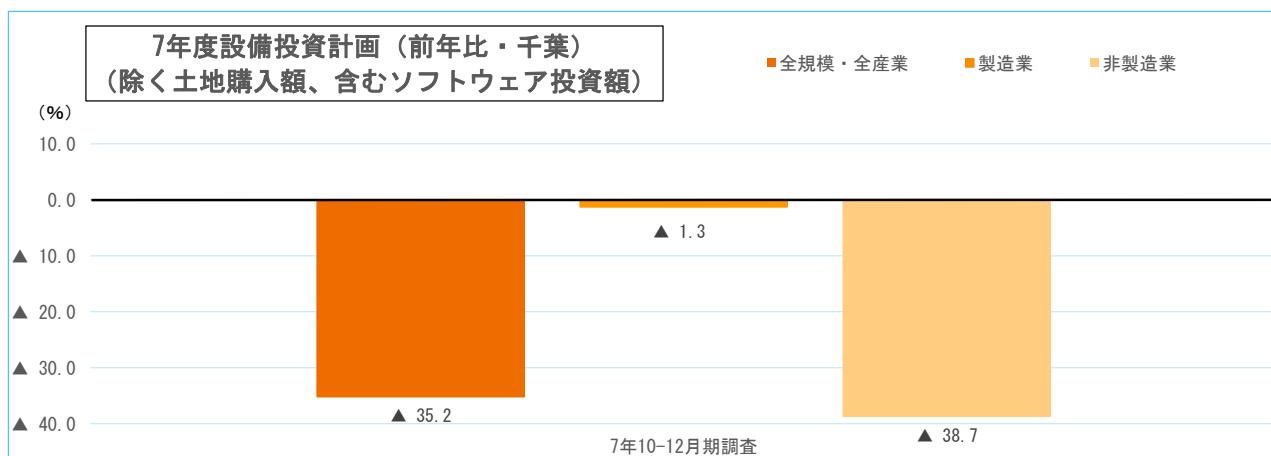
緩やかに持ち直しつつある



【千葉労働局】

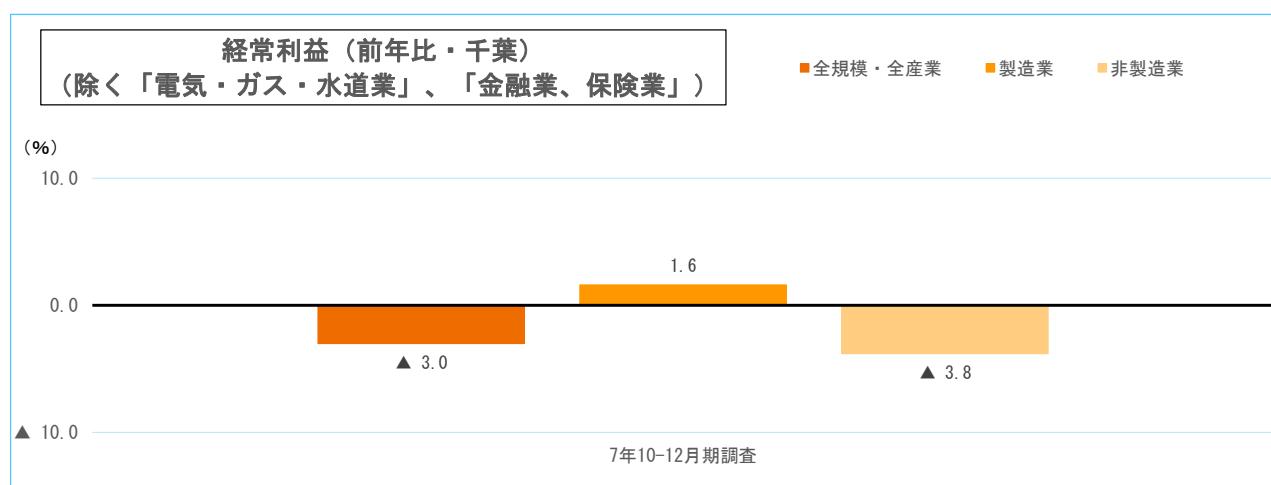
4. 設備投資

7年度は減少見込みとなっている



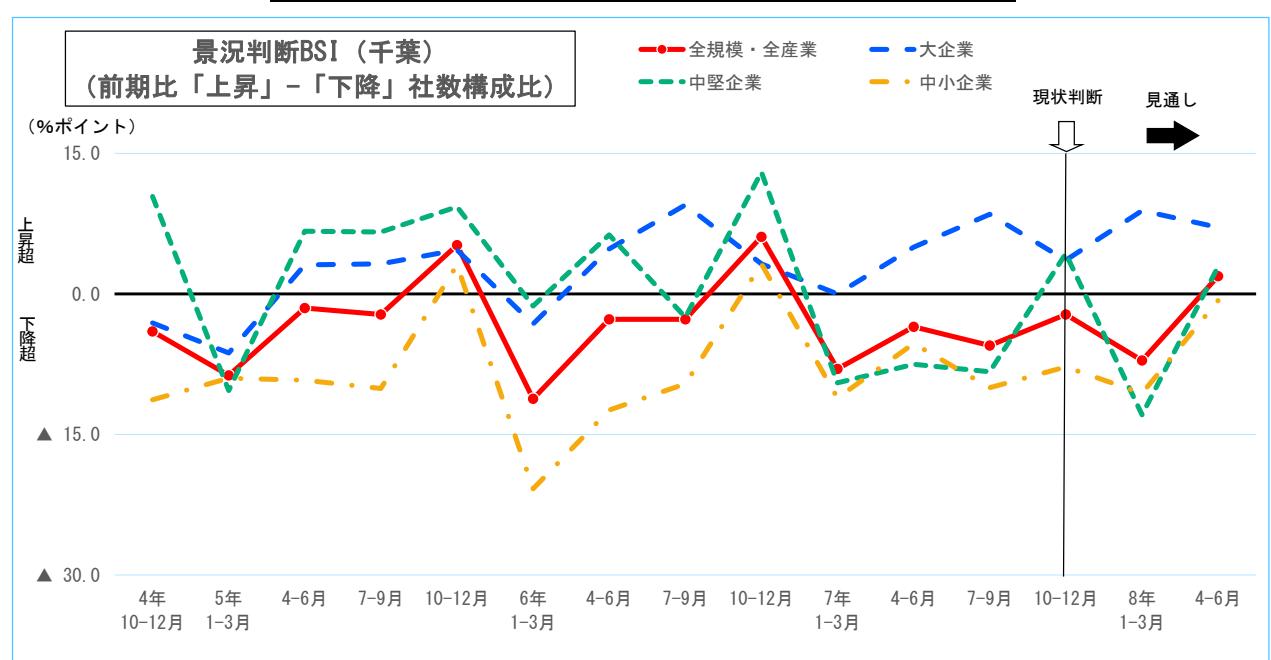
5. 企業収益

7年度は減益見込みとなっている



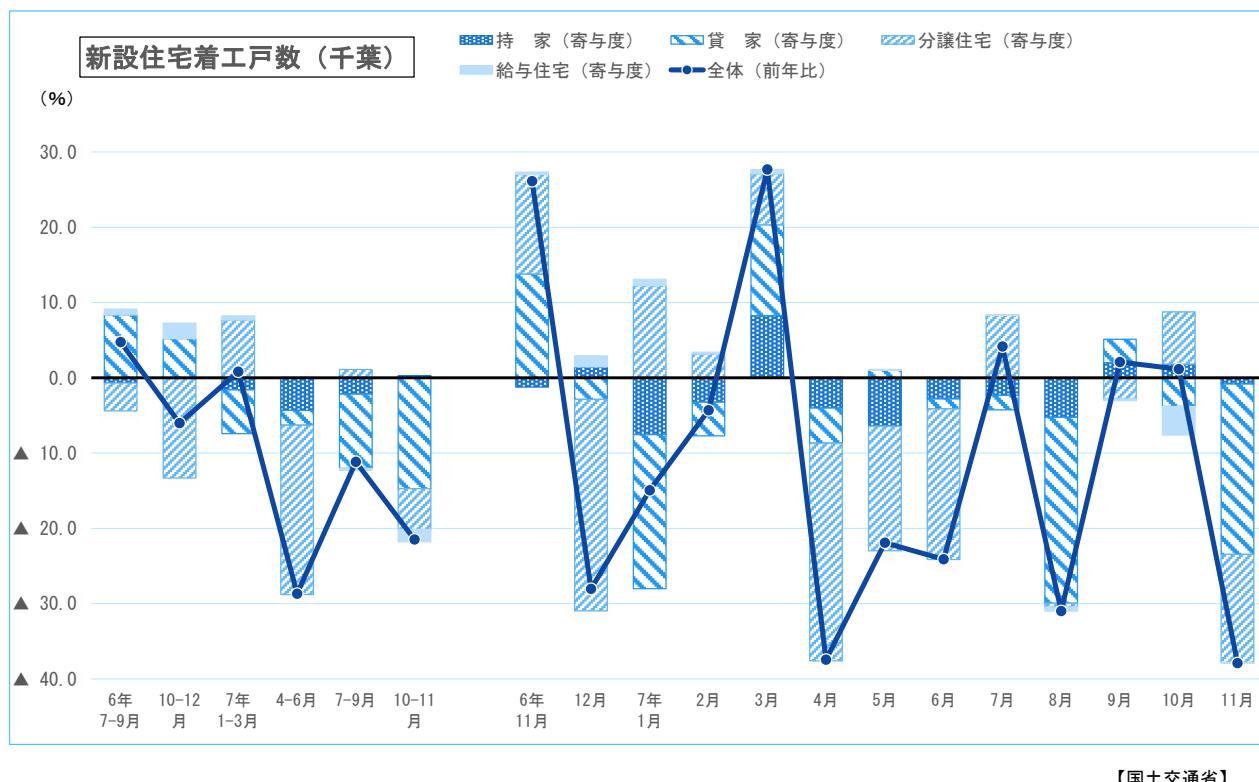
6. 企業の景況感

「下降」超となっている



7. 住宅建設

前年を下回っている



8. 公共事業

前年を上回っている

